

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和7年4月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672700145
法人名	有限会社 ひまわり苑
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地	鹿児島県南九州市川辺町上山田4239番地5 (電話) (0993) 58-9038
自己評価作成日	令和7年3月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和7年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・周りに自然が多く、四季を感じやすい。桜やつつじをはじめとした花々やホームのさいえん畑で育てた野菜や自生しているつわぶきなどの収穫も楽しむことができる。また、その食材を使って、一緒にメニューを考え、郷土料理を楽しむことができる。デッキでもエンドウやキュウリ、苦瓜などを栽培し、日々成長を見られ、収穫時を楽しみに待っている。

・ホームができた頃から、徐々に周囲に住宅が増え始めており、地域自体が賑やかになった。これは、環境の良さを意味すると思う。

・日頃の野菜の下ごしらえや新聞折りなどの軽作業に加え、つわむき、筍むき、干し柿作り、切り干し大根作りなどの作業を季節ごとにスタッフと一緒にしてもらっている。定期的に、たこ焼きや団子作りも食堂で一緒に行っている。

・今年度は、「尊厳を持ってケアにあたる」という意味を深堀してきた。結果、「その人らしさを大事にすること。」「その人の選択を尊重すること。」ということに行きついた。尊厳を持つという事を再認識することでケアにさらに軟らかさが加わった気がする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は川辺町郊外の自然豊かな集落に立地し、敷地内の畑での野菜や果実の栽培・収穫など、季節を日常的に楽しめる環境にある。地域の太鼓踊り見物や小学生の来訪・交流も再開され、近隣住民からの野菜の差入れ等もあり、地域との交流が日々の生活の中で行われている。

・管理者・職員は、利用者と家族の関係が途切れないよう、面会室や窓越し面会時には写真を撮って渡したり、定期的に広報紙や近況報告を送付している。

・協力医療機関との24時間の医療連携体制が築かれている他、複数の看護有資格者による健康管理が行われ、医療・健康面での家族の安心を得ている。

・管理者・職員は「尊厳を持ってケアに当たる」ことをケアの核として、利用者の持てる力・思いを大事に、職員の価値観を押し付けないよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事務所やトイレなどに理念を貼り、職員が常に目にできるようにしている。新調したパンフレットにも、理念を掲載している。	理念を事務所やトイレ等の目に付きやすい場所に掲示し、パンフレットにも掲載している。職員は各自で確認しケアに取り組んでおり、ケアの振り返りは必要時に行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	数年ぶりに地域の小学生との交流会が実現した。コロナウイルスの感染予防の為、人との交流も少なくなっていた為か、小学生が前に並んで歌を歌っただけで、涙を流す入居者様もいらっしやった。	町報で地域行事を確認しており、太鼓踊りの見物や近隣住民からの野菜の差入れ等で地域との交流の機会があり、小学生の来訪・交流も再開している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	相談があれば、話をしている。介護教室等を実施するに至ってはいない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際等の報告をしているが、意見が出ることが少ないので、写真を掲載して委員の皆様にも様子が伝わりやすいようにして、感想や意見を出してもらうようにした。	公民館で2ヶ月に1回運営推進会議を実施し、事業所の状況報告と意見交換を行っている。資料は委員にわかりやすいよう写真を添付する等の工夫をし、活発な意見交換や助言を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	分からなところは、運営推進会議の際に質問したり、メールで質問したりしている。今後は、問い合わせも電子申請のみの受付になるので、操作に慣れる必要があり、不安もある。	運営推進会議時の意見交換やメールでの報告・照会を中心に連携を図っており、必要時は電話や窓口に行き、より協力関係を築けるよう取り組んでいる。市の研修会はできるだけ参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等適正化対策委員会を虐待防止委員会と合わせて、3カ月に1回を目安に実施している。身体拘束・虐待共に確認されていないが、それらにつながる不適切なケアもないよう取り組みを行っている。研修も年に2回実施し、尊厳を持ってケアにあたることを肝に銘じている。	指針を作成し、委員会を3ヶ月に1回、研修会は年2回実施し、職員の理解を深めている。職員の不適切な言葉に気づいた時は管理者から注意を促している。玄関は施錠せず、外に出る利用者には職員が同行して敷地内の散歩をする等、行動を制限しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会で、虐待について確認を繰り返し行いながら、不適切なケアも見過ごさないように注意を払っている。研修も、身体拘束の防止と合わせて行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	前年度、成年後見人制度を勧めた方が良いのではないかとというケースにあたり、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、学び直した。活用までは至らなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時は、できる限り事前に契約書等を渡して、読んでもらったうえで説明している。理解納得を確認し、署名捺印してもらっている。改定については、説明を文書化し、郵送している。承諾書を返信してもらっている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>重要事項説明書に相談苦情受付窓口を明示している。面会の際に話をし、意見や要望等聞くようにしたり、面会簿の下の欄に意見等かける欄を作っている。思いのほか、運営推進会議でご家族の気持ちを聞けたりする。入居者様からは、普段の会話の中から聞き取るようにしている。</p>	<p>利用者には職員から声をかけて要望を聞くようにしている。家族には、運営推進会議や面会時に要望を聞き、これまで食べ物の差入れや外出についての問い合わせを受け、その都度、検討して対応している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日常的に職員は意見や提案を行い、それを反映している。</p>	<p>管理者は申し送りや勤務の中で職員の意見を聞き、その都度検討して意見を反映できるようにしている。個別相談は随時受けて対応しており、必要時は管理者から声をかけて個別面談をすることもある。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>休日もなるべくそれぞれの希望に沿うように調整している。ストレス軽減やマンネリ化を防ぐためにリフレッシュ休暇を導入している。時短を希望する職員にも早出をするなどして対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症基礎研修を受けられるようにサポートしたり、介護福祉士実務者研修やリーダー研修を受けられるように勤務の調整をしたりした。職員のやる気を尊重しながら、研修の機会を持てるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍以降、管理者は他事業所の管理者同士のつながりは持てているが、職員同士の交流は途絶えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、できる限り面談に出向いたり、ホームに本人も着て頂いたりしている。不安な事や要望等も傾聴する様にしているが、必要以上に不安な部分に焦点をあてて話をすることで、不安感を煽ったり暗示をかけたりすることのないようにも気を付けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居日前に一度面談をして、不安な事や要望等を聞くようにしている。入居時に、帰宅願望が強かったり、不穏の強い方については電話などでご家族の協力を仰いでいるが、心配させることにつながることもあるかと思う。御家族をお客様にしてケアを行うより、共に心配し悩み一緒にケアをしていく姿勢も入居者様、ご家族の為に必要かと思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報をもらったり、面談をし、別のサービスを勧めることもある。また先々を考え、当施設でできること出来ない事を伝え、他のサービスも検討していただくこともある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや野菜や果物の皮むきなど、できることは行ってもらおうようにしている。食レクでは、食堂で一緒に調理を行ったりしている。献立や作り方を入居者様に教えてもらうこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際に近況を伝えたり、請求書送付の際に、苑だよりや写真、手紙を添えたりして入居者様の状況を伝えている。精神的な面では御家族のサポートが一番だと伝え、共にケアをしていく姿勢を見せている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	キーパーソンの御家族だけでなく、希望があればその他のご家族にも苑だよりを送り、状況を知らせるようにしている。記憶障害もあるので、遠方から面会に来られた場合は、写真をとるようにしている。太鼓踊りなど地元の行事に参加している。	家族・知人の面会や家族との外出での交流を支援し、面会時には写真を撮って渡している。事業所でも年2回広報紙を送付する他、近況報告や写真を送付し、家族との関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1名ターゲットにした他者にきつい物言いをしたり、誹謗中傷したりしてトラブルになる方がいる。仲裁したり、その方の心理についてアセスメントしてみたりして対応しているが、対応に苦戦している。関係性に合わせて、席を決めたり、スタッフがいる中で一緒にレクや作業をしてもらうことで関係性を築けるように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な場合は、相談にのったり、病院に色紙などを持参してお見舞いしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話やしぐさの中から、意向を把握する様に努めている。本人の価値観や思いを大事にし、心理面までアセスメント時に検討する様にしている。	利用者同士の会話や職員から個別に声をかけて気持ちを引き出すように努めており、利用者から個別ケア時や夜間帯に話かけることもある。困難な場合は、家族の情報や日頃の関わりの中で本人の思いを推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に居宅のケアマネから情報提供を頂いたり、御家族や本人様から話を聞いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で引き継ぎ時に話をしたり、日頃の会話、介護記録から状況を把握・共有している。アセスメントシートやマッピングにより、全体像を掴んだり、可能性や見通しを把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、御家族の要望や意向を聞き、介護職員から情報をもったり、病院受診時の医師の意見も参考にしながら、プランを作成している。2ヵ月に1回モニタリングをしている。	面会時に家族の希望を聞き、申し送りや勤務中に出された職員の意見を合わせて介護計画を作成している。モニタリングを2ヶ月毎に実施し、1～2年または状況変化時に介護計画を見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯と夜勤帯で介護記録を記入。バイタルチェック表や業務日誌・排泄表・体重測定記録等評価・アセスメントに繋げている。記録が充分でない時もあり、これが重要とか見たまま言ったままを書くように話している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があれば、柔軟に対応することは可能だと思うが、思い当たる事例がない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校との交流が、7年ぶりくらいに実現した。地域の消防団や小組合は経営者が地元なので把握でき、協力をもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に相談し、受診に家族が付き添う方と、ホームで介助する方という。家族が付き添う場合は日頃の状況をご家族に伝え、診療内容や薬等についての情報を得るようにしている。ホーム側で介助する場合は、日頃の状況を医師に伝え、相談したりしている。	契約時にかかりつけ医の希望を確認し、家族の協力も得ながら継続受診を支援している。協力医療機関の24時間対応や看護有資格者の健康管理により、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員が異変に気付いた場合は、看護職員に伝えている。看護職員も、ケアの中で注意して欲しいことを介護職員に伝えている。受診時の内容等も、全体で共有できるように申し送っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時になるべく早く情報提供を行っている。医療的な事だけでなく、認知症状であったり、ケアに注意が必要な点も合わせて情報提供する様にしている。入院中は、病院の相談員に状況を電話で確認したり、面談に向いたりしている。退院時は、病院から情報提供を受けている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合の指針は作成している。医療連携加算もとおらず、設備も重度化に対応していないことから、寝たきりや看取りまでの対応はしない事にしてきた。今年、バスリフトを導入した。住み慣れたところという本人様やご家族の要望になるべく添えるようにしたいという思いもあり、今後は医療連携加算の取得をし、重度化や看取りにも供えられるように検討をしたいと考えている。</p>	<p>契約時に重度化等の場合の対応について説明している。特別養護老人ホームについては入居後に段階に応じて説明している。重度化の場合、医師から家族に病状を説明し、家族の意向を確認している。家族の意向に沿って支援に取り組んでいるが、食事が摂れなくなった段階で特別養護老人ホームを選択するケースが多くなっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>心肺蘇生法の講習を実施した。事故発生や感染症発生時のマニュアル、感染症BCPは作成している。BCP机上訓練も行った。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害・火災の避難訓練を年2回実施した。マニュアル、BCPについても作成している。自動通報装置・スプリンクラーも設置している。年に1回備蓄の点検も行っている。経営者が地域の消防団長であり、協力体制は築けている。</p>	<p>地震・火災の避難訓練を、消防署の立ち合いを受けて年2回夜間想定で実施し、消防団との協力体制を築いている。事業継続計画（BCP）を策定し、見直しも1回行っている。備蓄は3日分の水・米・缶詰・レトルト食品等、及びカセットコンロを準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護について研修を年1回実施している。尊厳を持って、ケアにあたるように日頃から話をしている。	研修を実施し、尊厳を持ってケアに当たることを核にしている。その人の価値観・選択等の思いを尊重し、職員の価値観を押し付けない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で希望や意見を表出できる方も多いが、本音を出さない方もいらっしゃるので、日常生活の会話の中で、聞き取るようにしている。選択できる機会をなるべく設け、自己決定してもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさや価値観を大事にしケアをしていくように心がけてはいるが、団体生活であるという固定観念が入居者にも職員にもあり、本当の意味で個人に合わせた支援は充分にはできていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣服は自分で決めたものを尊重しているが、あまりに不自然な時はそれとなく助言している。自分で選べない人も、職員が選んで了解を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	郷土料理や昔ながらの料理を提供が食卓に出ることが多い。一人ひとりの嗜好も把握している。入居者に作り方を聞いたり、食堂でホットプレート等で一緒に調理する機会ももうけている。	職員が献立を作成し、一人ひとりの好みにも配慮して提供している。保存食やチマキ作り、ホットプレートでの調理を利用者も一緒にしている。季節の行事食や誕生日の食事・ケーキ等を工夫して楽しく取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量、体重を把握している。咽のある方は、トロミUPしたり、食事の形態もひと口大などに承諾を得て行っている。飲み物も、お茶や白湯の他にスポーツ飲料や黒糖茶・生姜湯など選ぶ機会も設けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗口液を利用する人、歯ブラシで自分で歯を磨く人それぞれに合わせて、口腔ケアを行うが、義歯を洗浄剤に浸す事だけは、職員が行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意がない方もトイレに座って頂く時間を作っている。パッド使用の方も、なるべくなら自分で交換できるように工夫し、パッドの確認もその人に合わせて、介入している。	声掛け誘導を行って、日中は全員トイレでの排泄を支援している。パッドは個々に応じた適切なものを選択しており、自分でパッド交換を行う利用者もある。身体状況等で、夜間のみポータブルトイレやオムツを使用する利用者もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無をバイタル測定時に聞いている。記憶障害もあり、なかなか排便の確認が確実にとれず、トイレの便臭により、本人への排便の確認も行っている。食物繊維の摂取や、水分摂取、運動を勧めたり、毎朝牛乳を提供したりして、自然排便が出来る様努めるが、便秘になった場合は、下剤使用し排便コントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	バスリフトを導入し、浴槽のまたぎが難しかった方も入浴しやすくした。柑橘類を浮かべたり、入浴剤を使用し、入浴を楽しめるようにしている。いつでも入浴できる体制まではとれていない。	週2～3回午後に入浴を支援し、全員リフト浴対応であり、サワーポメロの皮や入浴剤を入れて入浴を楽しんでいる。汚染時はシャワー浴で保清に努めている。嫌がる場合は、無理強いせず、時間や人・日を変えて入浴支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思で就寝しているが、その日の体調や行動、眠気により、就寝の声かけや介助をすることもある。雨戸により、音や気温の調整をしたり、温度調整をしてよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になったら、申し送るとともに連絡帳にも記載する。薬チェックを3重に行っている。服薬確認までしているが、薬が落ちていることがたまにある。薬情書をケース記録に綴り職員がいつでも見れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>新聞折や洗濯物たたみなど、できることをして頂いている。小学生へのプレゼントで、職員と一緒に巾着を作成し喜んでもらった。つわむきや野菜の皮むき果実の皮むきなど楽しんで行えている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>昨年より、徐々に、家族との外出機会も持てるようになっていくが、人ごみは避けてもらうようにしている。ホーム全体での外出はまだ行っていない。</p>	<p>天候の良い日は散歩をしている。年間計画を立てて、太鼓踊り見物や季節の花見に出かけている。個別に職員同行の受診支援や家族と受診や墓参り・自宅訪問・外食等で外出する利用者もある。外出を嫌がる利用者には車窓から眺めてもらっている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>記憶障害や盗られ妄想のある方もいるので、お金の所持は基本にお断りしている。買い物の代行は実施し、後もって家族に請求する様にしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話をかけたり、受けたりする介助はしている。子機を利用して、居室でゆっくり話ができるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに空気清浄器や加湿器があり、温度湿度を調整し、快適に過ごせるようにしている。テレビ室はソファを置いているが、座る場所で時々もめることがある。テーブルは毎食前にアルコールで拭いている。ソファや手すりも毎日アルコールで清拭している。	ホールは空気清浄機や加湿器・エアコンで適度な室内環境に調節し、換気は窓を開けて行っている。季節の花や作品を飾り季節を味わってもらえるように工夫しており、利用者はソファや和室でくつろいでいる。テーブル等の配置は車いすやシルバーカーの動線を確保できるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの窓際で日向ぼっこをしていたり、テーブルで数字合わせをしていたり、テレビ室で時代劇を見ていたり、それぞれで思い思いに過ごす時間がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や自分で描いた絵や手芸作品を飾ったり、家族の位牌を持ってきたり自由に居室を作っている。	居室は、ベッドやタンス・押し入れ・寝具・エアコンが備えてある。本人は使い慣れた寝具やハンガーラック・衣装ケース・ラジオを持ち込んだり、大事にしている位牌や遺影・写真・ぬいぐるみ等で落ち着いて過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが全体についている。ほぼバリアフリーになっている。ベッドの高さは一人ひとり立ち上がりやすい高さに設定している。トイレの表示を廊下に突き出す形に作ったところ、トイレが分からなかった人が一人で行けるようになった。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない